



## 15 生殖医療センター

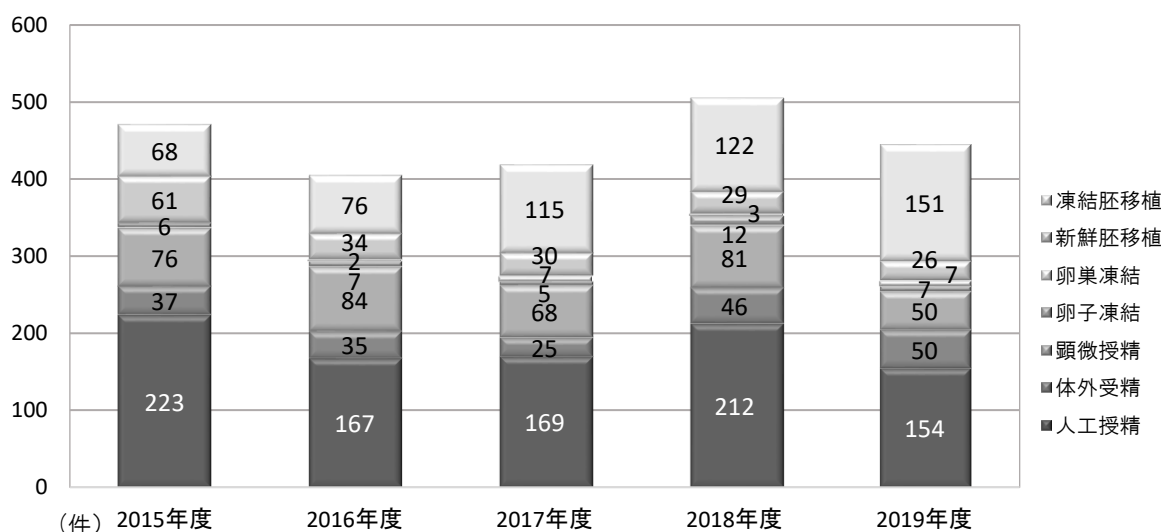
生殖医療センター設立後、7年が経過した。生殖医療センターでは終日外来診療を行い、どの時間帯でも受診可能である。生殖医療センターは大学病院特有の合併症を有する患者さんの不妊治療症例が多いのが特徴であるが、若年齢から高齢の不妊患者さんまで、また患者さんの背景や不妊原因に応じて、性交のタイミング指導から体外受精・胚移植といった高度生殖補助医療まで幅広く診療を行っている。さらには子宮筋腫、子宮内膜症などの不妊原因となりうる器質性疾患を有する患者さんに対しては、腹腔鏡・子宮鏡などの内視鏡手術を中心とした手術療法を実施しており、良好な治療効果を認めている。さらに、卵管性不妊患者さんの自然妊娠したいという希望を叶えるため卵管鏡手術、腹腔鏡手術も積極的に施行している。

反復着床不全などの難治性不妊症や不育症患者さんに対しては系統的かつ最先端の検査を導入、さらには研究データに基づいた世界に先駆けた治療も導入し、可能な限り多くの患者さんと妊娠・出産の喜びを分かち合えるように努力している。

また、2016年1月に設立された「兵庫県がん・生殖医療ネットワーク」により、2017年度は卵巣凍結7件、卵子凍結5件、2018年度は、卵巣凍結3件、卵子凍結12件、2019年度は卵子凍結7件、卵巣凍結7件を施行した。若年がん患者さんの妊孕性温存治療は、がん治療に影響を与えることなく、がん治療前にいかに迅速に行うかが重要である。そのためには、卵子凍結・胚凍結・卵巣凍結を柱とし、それぞれの患者さんにあった妊孕性温存治療を考え、早期に原疾患の治療を行えるように努めている。なおがん生殖外来は平日11時から毎日行っている。

今後もさらなる生殖医療センターの発展を目指して邁進していきたいと考えている。さらに、生殖医療・産科・婦人科・遺伝・出生前外来と全ての部門で密に連携をとれる大学病院の強みを生かし、「ここで治療したい」と思ってもらえるような診療を心がけていく。

15-1 年度別人工授精・体外受精・顕微授精・卵子凍結・卵巣凍結・胚移植（新鮮・凍結）（合計445件）



15-2 年度別新規患者数

